

# 高知県教組はこんな活動をしています。

<連絡先>  
電話 088-822-4135



☆高知県教組HPも  
ぜひご覧下さい。

## 教育研究活動



2010. 11. 6・7教育のつどい

私たちは教職員の集まりです。子どもたちのためにより良い教育を実現するために、日々の教育実践を見直し工夫を重ねていく必要があります。また、その努力をし続けて行くことが、自分の成長につながりますし、ひいては子どもたちのためにもつながります。

そのために、お互いの実践を持ち寄って学び合ったり、全国の多くの実践家を招いたりして、教育研究活動を進めています。



## 教育条件整備



ゆきとどいた教育署名県議会提出行動(12/7)

## 様々な職種の人とともに



学校司書の「法制化」を求める  
国会議員要請行動(2010. 11. 29)

今年度、小学校1年生で35人学級が国の予算で実現しました。高校授業料無償化も行われています。高知県では、それに先立ち、県の予算で、小学校1・2年生30人学級、同3・4年生35人学級、中学校1年生30人学級が実現しています。これらは、ゆきとどいた教育を求める運動を20年以上にわたって続けてきた成果です。

教職員定数増も、教育予算増も、すべてそれを求める運動がないと実現しません。多くの保護者の方や、民主団体の方と一緒にその運動を繰り広げています。

学校現場には、多くの職種の人があります。教諭はもちろんですが、事務職員や養護教諭、栄養職員、司書教諭・司書、実習助手、寄宿舎指導員、現業職員、用務員など。このような多くの人がそれぞれの役割を果たすことで学校全体が動いています。

それぞれの職種の方は、それぞれに独自の課題を持っています。私たちは、女性部や青年部も含めて、専門部というものを作り、その独自課題の解決にも取り組んでいます。また、それぞれの職種での実践を学び合う教育研究活動などにも取り組んでいます。

各学校においては、一人ずつということが多い職種の方も、こうした仲間と一緒にいれば、一人ではありません。

## 臨時教職員運動



今年度の連続講座の様子(5/28)

学校現場には、今、多くの「臨時教職員」の方がいます。定員席で一年間着任している人もいれば、病休や産育休の人の代わりに着任する人もいます。いろいろな名称の「支援員」の方もいます。そうした方がいないと、今の学校は成り立ちません。

本来であれば、必要な教職員は正採用で雇うべきです。「教育に臨時はない」、私たちはそう考えています。だから、少しでも臨時教職員が少なくなるように大幅採用をめざして運動してきました。また、臨時教職員制度の改善を求めて運動を続けています。そんな運動の中で、今年度は、当初は7月20日から始まると発表された採用審査日程を学校現場のことを考え21日から変更させました。

## 賃金労働条件改善



私たちは、「人間らしい働き方(ディーセントワーク)」を求めるとともに、働きぶりに見合う賃金と処遇を求めています。そのために、賃金改善を求める署名や、様々な内容での県教委交渉(写真は2010. 11. 15賃金労働条件確定の課長交渉)、全国の仲間とともに文科省交渉などに取り組んでいます。

私たちの勤務条件は、そのまま、子どもたちの教育条件です。私たちは、この観点から賃金労働条件の改善を求める運動を繰り広げています。

私たちは学校現場で働く労働者であり、身分は地方公務員です。労働者としての権利を守るために運動することは当然の権利ですし、少しでも働きやすい環境と労働条件を求めることも当然のことです。

今、学校現場は、過労死ラインと言われる「月80時間以上の残業」が常態化するような長時間過密労働が続いています。賃金も、この10年間で年間賃金が平均70万円以上引き下げられています。客観的ではない人事評価で賃金に差をつける人事評価制度も導入されています。



## 楽しい活動もいっぱい



全県青年部学習交流集会・こじゃんとで  
ピザと竹細工に挑戦している様子(2010. 11. 20)

もちろん、私たち教職員組合は、「集まれば元気」を合い言葉に、集まって参加すれば楽しいという行事もたくさん行っています。

スキーツアー、ボウリング大会、海レク、バス旅行、ソフトボール、バレーボール、いろんなことを名目にした食事会等々……。

こうしたいろいろな活動の中で、組合員同士の交流を図っています。日頃は見られない意外な側面を発見するのもこんな時。それが、ますますお互いのつながりを深めています。

日頃は言えない愚痴や悩みを言えるのもそんな時。それが、「明日」への元気につながります。



# あなたも一緒に活動しませんか